



3 「健康づくり」

分野6 たばこ



1 指標の達成状況と評価

成果指標

評価指標	基準値 令和2年度 (2020年度)	現状値 令和5年度 (2023年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)	評価	出典
① 喫煙率	11.1% 【令和元年度 (2019年度)】	—	5%	—	1
② 受動喫煙の機会がないと答えた割合	29.4% 【令和元年度 (2019年度)】	—	増加	—	1

取組の評価指標

評価指標	基準値 令和2年度 (2020年度)	現状値 令和5年度 (2023年度)	目標値 令和8年度 (2026年度)	評価	出典
③ スモークフリーを知っている人の割合	—	23.7% 【令和4年度 (2022年度)】	80%	—	3
④ スモークフリー協賛機関数	—	527件 (9.4%)	市内事業者の 80%	—	—
⑤ 妊婦の喫煙率	1.0% 【令和元年度 (2019年度)】	0.8% 【令和4年度 (2022年度)】	0%	b	2
⑥ COPD 認知度	41.5% 【令和元年度 (2019年度)】	—	80%以上	—	1
⑦ 禁煙チャレンジ助成金交付者数	65人	40人	増加	d	—
⑧ 将来喫煙したくないと思う子供の割合	—	96%	100%	—	4

指標の出典一覧

- 1 吹田市健康に関する市民意識アンケート調査 令和元年度(2019年度)
- 2 健やか親子21母子保健調査
- 3 市民意識調査
- 4 小・中学校での薬物乱用防止教室における授業アンケート

※③は令和4年度(2022年度)市民意識調査にて把握のため、基準値なし

※④は令和5年度(2023年度)以降の取組のため、基準値なし

※⑧は令和5年度(2023年度)以降新たに把握したため、基準値なし

2 これまでの主な取組

(1) たばこが吸いにくい雰囲気醸成

行政の取組

- ・ 窓口等でのリーフレットの配架や、ポスター、卓上旗(ミニフラッグ)の掲示により、スモークフリーシティの理念を発信しました。また、スモークフリーシティの文言、ロゴマークを封筒に表示する等、スモークフリーの認知度の向上に取り組みました。
- ・ 令和5年1月スモークフリーフェスタを開催し、市内小中学生による禁煙啓発ポスター入賞作品の表彰、健康への影響に関する講演会、学識経験者や事業者を交えたパネルディスカッション等を行いました。
- ・ 主体的に受動喫煙対策に取り組むとともに、従業員への禁煙啓発に取り組む事業者を登録する、スモークフリー協賛事業者制度の運用を令和5年度から開始しました。
- ・ 令和5年度から、路上喫煙防止啓発員を配置し、喫煙禁止地区等を中心に指導、啓発活動を行いました。
- ・ 受動喫煙への対応や環境美化、喫煙者への禁煙を促すことを目的とし、令和5年4月から市内2箇所で密閉型喫煙所「卒煙支援ブース」の供用を開始しました。

地域団体の取組

- ・ 吹田商工会議所では、スモークフリーや禁煙チャレンジの啓発チラシを配架、会報誌へのスモークフリーやたばこに関する記事の掲載等の啓発を行いました。
- ・ 吹田市 PTA 協議会では、学校行事等を通じて、保護者に対し校内や路上喫煙防止の周知を徹底しました。
- ・ 吹田市歯科医師会では、歯科健康診査時に、喫煙による歯と口腔への影響について指導しました。

(2) 喫煙者への禁煙支援

行政の取組

- ・ 健(検)診等を受診した喫煙者に対し、リーフレットを用いた啓発や、健診結果説明時に医師による指導を行いました。また、健診の結果、生活習慣の改善が必要な喫煙者に対し、保健指導を実施しました。
- ・ 禁煙治療に係る自己負担額の一部助成制度(禁煙チャレンジ)の実施及び制度の周知を行いました。また、禁煙治療の中断を防ぎ、禁煙に確実に導くため、保健師による禁煙支援を実施しました。
- ・ 世界禁煙デー(5/31)及び禁煙週間(5/31~6/6)に公共施設、大学等において啓発活動を行いました。また、毎月22日の「スワン(吸わん)の日」に、SNS等で情報を発信しました。
- ・ 禁煙を意識するきっかけづくりとして、卒煙支援ブース内のディスプレイにて禁煙を促す動画の上映を行いました。

地域団体の取組

- ・ 吹田市薬剤師会では、各薬局に禁煙チャレンジのポスターを掲示しました。また、必要に応じ喫煙者に対し、禁煙外来の紹介等を行いました。

(3)20 歳未満の人の喫煙防止のための教育

行政の取組

- ・ 妊娠中、授乳中の喫煙及び受動喫煙が胎児や乳幼児に与える影響について、妊娠届出時や妊婦(両親)教室、乳幼児訪問等において周知し、同居家族を含めた禁煙を促しました。
- ・ 小・中学校において、学校薬剤師と連携し、薬物乱用による健康被害やたばこ、アルコール摂取の影響を学習する教室を実施しました。また、教室の実施と合わせて、たばこに関するアンケートを実施し、実態の把握を行いました。
- ・ 新たな喫煙者を増やさないよう、小中学校でクイズパネル等を使用した啓発展示(学校キャラバン)を実施しました。また、たばこについて考えるきっかけとすることを目的に禁煙啓発ポスターを募集し、最優秀賞作品は卒煙支援ブース内のディスプレイに掲示しました。
- ・ 大学生に対する啓発として、市内5大学の学生に向け、イントラネットを活用した情報発信を行いました。

地域団体の取組

- ・ 吹田市薬剤師会では、学校薬剤師が授業の中で、薬物乱用による健康被害やたばこ、アルコール摂取の影響について啓発しました。

3 現状と課題

- ・ 喫煙率について、現状値の把握ができないため、現時点で評価は困難ですが、参考として、30 歳代健診や国保健康診査等の問診結果を確認したところ、男性は減少傾向にありますが、女性は横ばいとなっています。引き続き、喫煙者の属性に応じたアプローチを実施していく必要があります。
- ・ 受動喫煙の機会がないと答えた割合について、現状値の把握ができないため、現時点で評価は困難ですが、参考として、市民意識調査の結果を確認したところ、改善傾向が見られました。受動喫煙は特に妊婦や子供への影響が懸念されます。
- ・ 令和元年度の国民健康・栄養調査では、就労世代の喫煙者のうち約4～5割が加熱式たばこを使用しているという結果が出ています。現時点では、加熱式たばこによる健康への影響等が示されていないことから、正しい情報を提供する必要があります。
- ・ スモークフリーを知っている人の割合及びスモークフリー協賛機関数については、目標達成に時間を要することが見込まれるため、事業者等と連携した制度の周知、啓発を強化していく必要があります。
- ・ 禁煙チャレンジ助成金交付者数は、基準値よりも減少しています。交付者数の減少については、喫煙率の低下に加え、令和3年6月から現在も継続中である禁煙補助薬の出荷停止に伴う、禁煙外来の休止が影響しているものと考えられます。
- ・ 令和7年4月の大阪府受動喫煙防止条例の全面施行に伴い、客席面積が 30 m²を越える飲食店は原則屋内禁煙となることから、施行内容を周知し、引き続き、屋内禁煙を徹底していく必要があります。

4 指標・目標値の見直し

(1)成果指標

該当なし。

(2)取組の評価指標

該当なし。

5 今後の取組の方向性

- ・ 妊産婦や20歳未満の人は特にたばこが身体に与える影響が大きいため、妊娠前からの健康づくりの一環として、喫煙の影響について周知していくほか、小・中学校においては、たばこを吸わせない教育として、学校キャラバンの全校実施等を進めます。
- ・ スモークフリーの実現に向け、事業者と一体となった機運醸成を進めるための手法を検討します。
- ・ 禁煙啓発動画を生活に身近な公共施設等で活用する等、様々な機会を捉えて、加熱式たばこも含めた喫煙の害や受動喫煙防止についての正しい知識の普及啓発を行い、また、路上喫煙の防止の周知・徹底を図り、非喫煙者に配慮した環境整備を進めます。
- ・ 禁煙開始のきっかけとなるよう、引き続き、禁煙治療に係る自己負担額の一部助成制度(禁煙チャレンジ)について、イベントやSNSを通じて周知、啓発します。また、禁煙希望者に対しては、禁煙治療実施医療機関一覧の提供や保健師による個別相談を実施します。